会　議　記　録

<table>
<tr><td>名　　称</td><td colspan="2">中央区基本構想審議会安心部会（第１回）</td></tr>
<tr><td>開催年月日
場　　所</td><td colspan="2">平成28年４月27日（水）19:00～20:30
中央区役所本庁舎３階　庁議室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者</td><td>委員</td><td>和気康太（部会長）、中野耕佑、小林高光、三田富貴子、市川尚一、鈴木久雄、青木かの、渡部博年、中山華子、松本紗智、齊藤進</td></tr>
<tr><td>幹事</td><td>平林治樹（企画部長）、田中武（総務部長）、黒川眞（福祉保健部長）、古田島幹雄（高齢者施策推進室長）、中橋猛（中央区保健所長）、吉原利明（総務課長）</td></tr>
<tr><td>配布資料</td><td colspan="2">中央区基本構想審議会安心部会（第１回）次第
中央区基本構想審議会「安心部会」委員・幹事名簿
中央区基本構想審議会安心部会（第１回）座席表
資料１　本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について
資料２　「安心部会」における検討項目</td></tr>
<tr><td>議事の概要</td><td colspan="2">１　開会
２　議題
（１）副部会長の選出について
（２）本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について
（３）「安心部会」における検討項目について
（４）その他
３　閉会</td></tr>
</table>

１　開会

配布資料の確認。

２　議題

（１）副部会長の選出について

和気部会長　　副部会長の選任に当たっては特に規定はないが、部会長からの指名でよろしいか。

（異議なし）

和気部会長　　それでは学識経験者である榊原委員にお願いしたい。

（全員の拍手により承認）

（２）本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について

（３）「安心部会」における検討項目について

事務局から資料１「本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について」及び資料２「「安心部会」における検討項目」を説明。

和気部会長　　報告内容の事実関係について質問があれば受け付ける。

小林委員　　前基本構想策定時は人口回復を中心に構想を考えられたと思う。それによって人間関係やコミュニケーションが複雑になるなどの弊害も出ている。そういった弊害を今後いい結果につなげていければと思う。

和気部会長　　プラスとマイナスの面があり、人口増のマイナス面にも目を配る必要がある。

人口増に転じた主な理由を区で分析しているのかお伺いしたい。大都市の都心は人口が流出して過疎化するインナーシティの問題が起こっているが、中央区では急速にプラスに転じている。

齊藤委員　　公式見解ではないが、私から説明する。定住人口が18万人だったのが７万人まで減り、底地買いの横行やバブルの影響で業務系の開発が非常に激しかった時期があった。それに対して、矢田区長は人集まらずして繁栄なしという理念のもとに住宅施策などの定住人口回復施策を積極的に取り組んだ。その結果、70戸程度しかなかった区の関係の住宅が現在は1,000戸以上ある。

民間では業務系の開発が進んでいたが、開発検討時に住宅を整備してもらうメリットとして２つの施策を展開した。１つは住宅の附置義務で、もう１つは住宅開発時の容積率の割り増しである。バブル崩壊後は住宅整備の方がメリットが出るため、積極的に住宅が整備された。

臨海部は今ではロケーションも含めて人気が出て、高層マンションが整備されているが、区が一緒になって再開発の中で住宅整備に強く取り組んだという流れの中で人口が飛躍的に回復した。居住者からすれば、職住近接、通勤時間の長さや負担から、生活しやすいと感じていただいているのではないかと思う。

和気部会長　　他に事実関係でお聞きしたいことがあればお願いしたい。

三田委員　　共生社会の推進で動物愛護という項目が入っている。ペットの適正飼養に関するニーズは高まっているのか。

事務局　　中央区は１人暮らし高齢者の割合が東京都、国と比べて高く、ペットが家族同様のような扱いになってきている。災害時の同行避難の問題などは課題となっており、１つの項目として挙げている。

（４）その他

和気部会長　　各委員が思い描く「20年後の中央区の将来像」や「将来像に向けた具体的な取組」など、自由な意見をお願いできればと思う。

鈴木委員　昭和63年に定住人口回復対策本部を矢田区長が提唱した時に賛成した。その結果、現在、14万人まで回復し、今後も平成40年まで人口が伸び、その後減る見通しとなっている。昭和63年に定住人口回復対策を行っていたが、今度は20年経つとピークを迎えて下がっていくことを視野に入れることとなる。何を施策にやるのでも、人口の増減がポイントになると思う。

青木委員　審議会の資料３「中学生が考えた中央区の課題」で、未来都市の下町との記載が含まれており、今の中央区を代表していると感じた。未来都市だが下町の付き合いがあることは中央区の特徴である。下町の良さを残すために、まずオリンピック・パラリンピックがある。東京都、国もオリンピックレガシー、パラリンピックレガシーと使っているが、中央区としてパラリンピックレガシーをどれだけ多く残せるかが重要である。

私が考えるキーワードの１つ目はユニバーサルデザインであり、資料２にもユニバーサルデザインのまちづくりへ言及がある。バリアフリーとの違いについて、バリアフリーは弱者、障害者の方、シニアの方向けの言葉、ユニバーサルデザインはすべての方向けの言葉と捉えており、バリアフリーは行政、ユニバーサルデザインは民間主導で進みやすいのではないかと感じている。

もう一つが、男女共同参画の問題である。男女性別、人種の違いもあり、一歩進んだダイバーシティが求められる。外国人も中央区内に増えており、障害を持つ方も増えている。ニュースでも取り上げられているLGBT、これらも含めたダイバーシティが必要かと思う。

和気部会長　ユニバーサルデザインとダイバーシティ、多様性は課題になると思う。社会福祉も今まではある種の枠組みで選別してその人たちだけを保護する考え方が中心にあったが、今は全ての人が社会福祉の利用者になっている。

ダイバーシティについては、中央区も様々な国籍の方が増える可能性がある。

渡部委員　資料１の中央区の４つの宣言を着実に進めることが基本であると考えている。

中央区の人口回復対策本部ができた時から人口が増えているが、昨今中央区に転居いただいている30代、40代の方々は基本構想で考える20年後には60代、70代になるわけで、居住者の高齢化に対して中央区がどのように進むのかをしっかり議論しなくてはならないと感じている。

和気部会長　人口の数だけではなく、構成がどのように入れ替わっているかを見る必要があると思う。中央区の場合は相続の問題もあり、高齢者がお亡くなりになると土地や家の扱いが課題である。充分に考慮した政策を検討する必要がある。

中山委員　小学生の時から人がいいことが中央区の強みだと思っており、人情あふれる関係性が区民同士をつなげていくと思っている。20年後に望むことを考えると、新しい人をつなげるという意味でも、中央区の強みが今後もあって、高齢者単独世帯も増えていく状況でもみんなで目を配っていければと思う。

松本委員　子育て支援について考えたく本審議会に応募した。課題は多く、高齢者やユニバーサルデザインの方向性を考えなくてはとも思うが、安心して子どもを預けられる場所を確保してほしいとも思う。箱モノの整備が一番良いが、今あるものの活用も必要である。それが達成できればと思う。

子育て支援は関心を持つ期間が短いため、スピードアップして問題を解決しなければいけないと危機感を持っている。子育て支援等についての情報をより提供いただき、中央区の良さを活かした案を考えたいと思う。

市川委員　２点申し上げる。１点はデータの話である。「人口の推計」と「将来人口推計」に東京都と日本全体の推計を入れてほしい。

矢田区長は命と健康を守る中央区を掲げ続け、区民の支持を得ているが、再開発

に伴い医療機関がそこで生業を営めなくなることがあると聞いている。ビル内の診療所が再開発に伴い出て行かざるを得ない場合もあるとのことである。中央区は都心だが、医療過疎になるのではと懸念しており、対策を議論が出来ればと思う。

和気部会長　東京都は医療計画で病院の二次医療圏を立てているが、中央区は独自には立てていないようである。医療計画そのものは、どのような病院をどこにどのような医療体制とするかを定めないと問題が起こる可能性がある。

市川委員　病床規制の話になるが、中央区には大きい病院は国立がん研究センター中央病院と聖路加国際病院しかない。中小規模の病院も２つで、有床診療所で救急を受けてくれるところは１つである。病院が必要とまで言っているわけではなく、日中に診療を受けられる診療所が減っていることが問題だと感じている。中央区は交通アクセスが良いため、区をまたげば大きい病院があるが、そこまで行くワンステップとしてのまちの診療所が立ちいかなくなっていることは課題である。

和気部会長　医者の代替わりで町医者が高齢化しても、子どもが継ぐパターンがあったが、今の中央区はどのような状況かお教えいただきたい。

市川委員　そのような仕組みはあるが、医学部も行きにくくなり、必ずしもそのパターンではない。

日本は公的医療保険による国民皆保険制度があり、維持可能な形でやっていかなければならないが、税金も高い、物価も高い、人件費も高いといった大都市でやっていくのは非常に大変である。再開発に伴って町医者がいなくなってしまうと命と健康を守る中央区が崩れてしまうと危惧している。

三田委員　私は中央区女性ネットワークに所属し、区内で活動している女性団体がお互いに交流を深めながら、情報交換できるネットワークを作る取組をしており、今年で13年目になる。現在22団体が加盟しており、講演会や集い、リーダー研修で交流を図るなどの活動をしているが、20年後を考えると高齢化が最も大きな課題である。若い方は若い方同士で団体を作りSNSで情報発信している。私たちの役目、使命は女性団体の活動を次世代に繋ぐことだと感じている。どのように若い世代の人に参加してもらい、中央区の女性団体が20年後も生き延びることが出来るかを学んでいけたらと思う。

小林委員　シルバー人材センターの観点からお話をさせていただく。シルバー人材センターでは最近元気な高齢者が多くなっている。シルバー人材センターでは650人程の会員がおり、働く意欲を持っている。

今までは高齢者が小遣い稼ぎ程度で取組んでいたが、最近は生活の一部として頑張っている。協働共助の考え方から、シルバー人材センターでできるものは取組ませてもらうような形が出来ればと思う。

もう１点は将来的な築地市場の移転である。跡地が大きな問題になると思っており、中央区も変わるのではないかと思う。新しい魚河岸を作るなど前向きに考えているが、個人的には中央区が大学の発祥地であることもあり、子どもたちがスポーツできる施設も含めた有名大学を誘致してほしい。

和気部会長　大学を誘致して大学と地域がコラボレーションするのは今の１つの大きな流れであり、これからも変わらないと思う。

人口動態で見れば65歳以上の中でも75歳までは元気な方が多い。この方々が活躍するかで地域社会の在り方は決まる。中央区は人口が増えているが、人口が減少していて活力が下がれば、75歳までの人に頑張ってもらえれば維持できるかもしれない。その意味ではシルバー人材センターにはぜひ頑張っていただきたい。

中野委員　高齢者が安心して住んで、楽しく働けるまちがいいことはその通りである。これから老老介護が増えるが、これに対する考え方をもう少し組み込めればと思う。ま

ちの若い人をどうやって地域に取り込むかというのも重要である。今はプライバシー保護からマンションの住民と交流できないこともあるが、行政の方にも知恵を出していただいて解決できればと思う。

和気部会長　地域包括ケアをどのように進めるかが議論かと思う。イメージが難しいが、間違いなくその日は来るわけで、今から先に手を打っておく必要があると感じる。

鈴木委員　高齢者の問題と同時に子育て支援も大きな悩みである。また、その狭間にある障害者支援の３つをどうするか議論が必要である。子育て世代の流入が人口増加の要因だが、高齢者の絶対数は多い。

財政的な問題、場所の問題も含めて、努力はしているけれども保育園を作っても待機児童は０にはならないと思っている。昔の保育園は保育に欠ける家庭を支援する所であったが、今は欠けていなくても支援している。本当に保育に欠けている家庭をどのように支援して、保育に欠けていない家庭にどのような対応をするか、そして障害者福祉を考えていきたい。

和気部会長　制度を作りサービスを提供するほどニーズが掘り起こされ追いつかない。これをどう考えるのかが１つの大きな論点になると思う。老人ホームも保育園も障害者施設も同様で、難しいかじ取りとなる。

経済そのものが「モノ」から「サービス」に変わっている。人を中心にどのようなサービスを提供するかが重要となった。そこで重要なのは人の問題であり、医療や保険や福祉や教育などに関心が集まる社会になる。それに歩調を合わせるように高齢化社会が進んだというのが昨今の日本である。

今後、20年で考えれば、少子高齢化、人口減少、都市圏への人口集積は変わらないのではないかと思う。人は便利な生活に慣れてしまうと簡単に不便なところに戻らない。その時に社会関係やネットワークがすごく希薄になってしまって、孤独化、孤立化することが課題である。今回の話を聞き、中央区であれば新住民の方をどのように巻き込み、区の住民になってもらうかを考えなくてはいけないと感じた。

中央区が変わり、リードすれば東京都が変わる、東京都が変われば日本が変わる、それくらいの気概を持って議論できればと思う。

齊藤委員　他の２つの部会と比べると安心部会は20年後というより今の課題が多くある。区としては20年後を考えながらも、できるものはすぐやる方向で進めたい。人の幸福は基本的に自己実現が図れることである。自己実現を図るために必要なことが部会の中の検討項目としてしっかり入っていると思う。

また、この部会が一番「人」に焦点を当てて話ができる。中央区は23区の中で２番目に小さな区でスペースはなく、施設をどんどん建てられるかというと土地は高いし場所もない。しかし、小ささを活かした安心の作り方があると思うし、人口増は人材が増えたことであるから、どのように地域で一緒にやっていくか、それがそれぞれの人の自己実現の一部になると思う。

市川委員からお話しいただいた医師が区民を守れる形も作らなければならないし、ダイバーシティの話は行政が当然にやらなければならないが、個人に返った場合に自分の中でどのように多様性を持てるかは難しい問題である。そのきっかけや方向性を作れればと思う。

和気部会長　公民協働や公私協働という言葉があるが、行政に頼るだけでは安心した生活が送れず、民間も自分たちの知恵を絞る必要がある。自分たちのやれることはきっちりやる、対等平等な関係を作る気概を持つことが重要である。

３　閉会

和気部会長の閉会宣言により終了。